

令和4年度における経営協議会学外委員からの 意見を踏まえた法人運営の改善について

○ 令和4年4月26日 第1回経営協議会

「第4期中期目標期間に向けた指定国立大学法人構想の展開について」に係る報告時における意見

海外から採用する研究者を増やすことにより、国際競争力の強化が期待できる。そのような採用を増やしていくための戦略はあるのか。

〈対応〉

海外から採用する研究者を増やすために、顕著な国際的研究業績のある者に対して支給する国際業績加算制度の改正を行い、従来は本学の年俸制適用後の業績を用いていたところ、年俸制適用前の業績も用いることとし、本学の採用人事における競争力を高め、本学の研究力を一層強化するための体制を整備した。

なお、当該改正において、年俸制適用後4年度目から加算額を支給するとしていたことを見直したことにより、令和5年度から複数名が当該加算額の適用を受けている。

○ 令和4年7月27日 第4回経営協議会

「指定国立大学法人構想の展開について」に係る報告時における意見

学内資源については各部局における部分最適ではなく、大学としての全体最適を考えていくことが大事である。学長のリーダーシップにより学内の資源配分も見直す余地があると思う。

〈対応〉

令和5年度予算において、各部局における国際業績の増加等、指定国立大学法人構想の推進に資するため、部局ごとの評価結果に応じたインセンティブに活用できるよう財源を捻出し、予算の再配分を行う仕組みを構築した。

○ 令和4年7月27日 第4回経営協議会

「指定国立大学法人構想の展開について」に係る報告時における意見

教員の採用においては、学長がイニシアティブをもって関わっていくことが重要。

〈対応〉

学長がイニシアティブをとり、人事給与マネジメント改革の一環として全学人事ロードマップを設定し、学内に周知するとともにウェブサイトにおいて公表した。これにより第4期中期目標・中期計画期間において適正な年代構成及び女性教員、外国人教員の積極的な採用を目指すこととしている。